勇士ウ※［＃小書き片仮名ヲ］ルター（実話）

鈴木三重吉

青空文庫

一

これは、こしらへた冒険談ではなく、全くほんたうの事実話ですから、そのつもりでお聞き下さい。

今からちやうど二十年まへのことでした。或ときイギリスのシェフィールドといふ町の警察へ、一人の泥棒未遂の犯人があげられました。年のころ三十がッかうの、黒い大きな眼をした、背のごく低い男で、夜中に、或家の屋根裏の部屋へはいりこんだところをつかまつたのですが、唖を装つてゐるのか、ほんとに唖なのか、どんなに、おどかしても、だましても、てんで口をきゝません。現場をつかまへた刑事のいふところでは、この犯人は猫のやうに、すら〳〵と屋根裏までかけ上り、にげるのにも、大屋根の真上を、平地のやうに、かけとぶといふ、したゝかもので、この手ぎはでは、むろん前科もあるにちがひないのですが、何しろ耳も聞えず、口もきかないのですから、署でも手こずりました。

で、ためしに、ほんたうの唖をつれて来て、手真似で対話をさせて見ましたが、犯人には、その手真似も一さい通じません。かゝり官はとう〳〵、その警察署附きのロバート・ホームスといふ牧師をよんで、やさしく、さとして見てもらふことにしました。

犯人はたゞの人のやうに、きちんとした身なりをしてをり、相当に物わかりもよささうな顔つきをしてゐるのですが、ホームスさんが来て、いろ〳〵おだやかに話したり、さとしたりしても、やはり、何にも聞えないふりをして取合ひません。

署では困りはてゝ、ともかく、そのまゝ留置場の一室へおしこんでおきました。

ところが、看守人たちは、この唖に午飯をはこんでやるのをわすれてしまひました。それから、念入りに午後のお茶も夕飯までも、すつかりわすれてあてがひませんでした。

すると、夜になつて唖は部屋の中で、ドタン、バタンとさわぎ出しました。その物音で看守人たちはそこに唖の泥棒がおしこめられてゐたことに、はじめて気がつきでもしたやうに、あわてゝバケツへ少しばかりの飲水を入れ、錫の水飲みをそへて持つていきました。

唖は、手をふりあげたり口をあけたり、種々さま〴〵の手ぶり手まねをして、そんな水なんぞが何になる、食べるものをくれろ、分らないのか、おい食べものだよ、といふ意味をくりかへし〳〵して見せました。しかし、ぼんやりぞろひの看守人たちには唖のすることが、ちつとも通じません。そのうちに、唖は、一人の看守に向つて、両手を寝台の方へぐいとつきつけました。看守は、寝台をわきへもつていけといふのだらうと合点して、その下にしいてある、ぼろけた、じゆうたんを、めくりとりました。唖はとう〳〵じれッたさまぎれに前後をわすれて、

「ちよッ、しやうのないばかだね。食ふものをもつて来い。かつゑてしまはァ。」と、どなりつけました。

こんなことから、唖は、すつかりばけの皮をめくられ、警官のとりしらべにも一々答へをしなければならなくなりました。

しらべ上げて見ますと、この犯人は、ちかくのある町のもので、ウヲルター・グリーンウェイといひ、年は二十九、まだひとりもので、おやぢの家に寝とまりをし、或商人の家の手代をつとめてゐる男だと分りました。おやぢさんは、薬剤師で、今では薬屋をやめて

引つこんでゐるのだといひます。ウヲルターは立派な教育をうけてをり、外国語も四五ヶ国の言葉が話せ、禁酒禁煙家で、ばくち一つ打つたこともないといふ、それだけを聞くといかにもまじめな人間のやうですが、それでゐて、この四年間に方々で九度も、夜、人のうちへしのびこみ、そのたんびにつかまつて牢屋へぶちこまれた前科ものでした。やらせると何でも出来る器用な男で、製本なぞも上手にやるし、帳づけも出来、監獄では活版工やペンキ工や、高い塔の屋根をなほす屋根屋もやりました。クリッケットといふ球戯にかけてはオーストラリア人のやうにずばぬけた腕をもつてゐます。

ところが、かゝり官がおどろいたのは、この男が人のうちへ、はいりこむのは、べつに物がとりたいからではなくたゞ、わけもなく、猫見たいにすら〳〵と、たかい屋根の上なぞへかけ上ることがすきで、とりわけ、よそのうちの、屋根うらの窓を見ると、どんなにがまんをしようたつて、がまんが出来ず、つひ雨樋なぞにつかまつて、かけ上つて、一ばんたかい部屋へはいりこむのだといふのです。

「まつたく屋根うらの部屋の窓を見ると、たまらないんです。外をあるいてゐて、ふと目を上げると、屋根裏の高窓があいてゐます。どこの家でも、気をゆるめて、一ばん上の窓は、きまつて、開けツぱなしにしてゐます。私は、人の家に、屋根うらの部屋がついてゐるかぎりは、いつまでたつても、この物ずきはやめられません。下手につかまつては牢へぶちこまれますが、しかし今まで、一度だつて物一つ盗んだことはありません。たゞ、高い部屋へはいりこんで見たくてはいるのです。どうか、今度は罰として、帆前船へでも乗り組ませてはいたゞけないでせうか。帆前船ならたかい帆綱がありますから自由にかけ上れます。でなくばいつそ、ベドゥインの村へでも追ひやつて下さいますと、警察のお手数もなくなるわけですが。」

まじめくさつて、かういふのですから、かゝり官もあきれました。ベドゥインと言ふのは、アラビヤやシリア地方にある、アラビア人の遊牧民で、さういふ土人は、羊を飼つて、草地のあるところを移りあるいてくらしてゐるのですから、村と言つても、たゞ、見すぼらしいテント見たいなものゝほかには家らしい家もありません。従つてたかい屋根うらの部屋なぞへはいりたくもはいれないですむといふ意味です。

かゝり官は、べつにわるい意志もない、この男を、この上又牢屋へ入れるのもかはいさうだといふのでさつき言つたホームス牧師の手にわたし、適当に、身のふり方をつけてやつてくれと命じました。

ホームスさんは、ウヲルターのお父さんをよんで相談しました。お父さんは、もう、こんなあきれた奴を引きとるのもこり〳〵です、どうにでもお取りはからひ下さるやうにと、泣いてたのみました。

そこでホームスさんは、いろ〳〵に考へたあげくウヲルターを、インドのコロンボーへ向けて出帆する、或船へ世話をして、船員として乗りこませました。

その後一年たちましたが、ウヲルターからは家へもホームスさんへも一片のたよりもよこしません。ホームスさんはとき〳〵〝〵思ひ出しては、心配し怪しんでゐました。するとそれから又一年目にウヲルターの船の船長からウヲルターは逃亡して、行くへ不明だといふ知らせが来ました。あゝ、あのならずものも、やつぱり救へなかつたかと言つて、ホームスさんはたんそくしました。

二

それから六年たつと例の世界大戦争がはじまりました。その二年目の冬に、或日ホームスさんのところへ、アラビアのトルコ領のメソポタミヤから来た一通の手紙がとゞきました。あけて見ると、古ぼけた紙をちぎつた二十五枚の紙片へ鉛筆でかきつけたもので、思ひがけないウヲルターからの音信でした。

「敬愛する牧師殿よ、こゝに、顔形から立居そぶりまで、まるで双子と言つてもいゝくらゐ、私とそつくりそのまゝの、あはれな一人の遊牧民上りの、つんぼの唖の乞食がゐます。」といふかき出しです。

「年も私と同年です。開戦当時から、何のあてもなく回々教徒の村々をさまよひ歩き、トルコ軍の陣営にも出入りしてゐました。

トルコ兵は、その乞食が、のこ〳〵出て来ては、大きな大砲や、迷路のやうに、くねりつゞいた塹壕や、いろ〳〵の破壊用の機械なぞを、子供のやうにびつくりして見てゐたりするのを面白がり、且つ半は彼の片輪をあはれがつて、いつも食べものをもくれてゐました。耳も聞えず口もきけない乞食ですから彼等は安神して、軍事計画の相談をしたときの配備の下がきを、その目の前へ投げすてたりして平気です。トルコ軍の上官たちは、その上に立つてゐるドイツの将校の命令書なぞを、その乞食が坐つてゐるそばで読み上げて会議をしたりします。

回々教の信仰にあつい彼等トルコ兵は、神さまにも見すてられた如き、あはれなこの片輪ものをいじめれば、じぶんたちも同じく神の罰をうけなければならないと考へてゞもゐるやうに、だれ一人彼に乱暴を加へるものもありません。かうして彼は残飯なぞをもらつて食べ〳〵しながら、トルコ兵の陣営の間をぶらつきくらしてゐました。

彼は、ときには敵方のイギリス軍の前線へもぶら〳〵やつて来ることがありました。しかし、食べものをもらつては、かつゑた犬のやうにがつ〳〵食べるきりで、口は一と言も聞きません。そのうちに、或とき、彼はイギリス軍の前線をくゞつて総司令部へ行きつきました。」

手紙はこれでぷつりと終つてゐます。ホームスさんは、このしまひのところへ来て、はッと目をかがやかしました。こゝまでよむと、そのウヲルターそつくりの乞食といふのは無論ウヲルター自身のことで、彼は今、さういふ乞食に仮装して祖国の軍隊のために、軍事探偵をつとめてゐるのだといふことが焼きつくやうに胸を打つたからです。

ホームスさんはよろこび勇んで、ウヲルターの両親をさがしに出かけました。しかし二人とも、もう死んでしまつてをりませんでした。ウヲルターは、一人子でした。その上、ほかにだれ一人、身うちのものもゐないことが分りました。

ホームスさんは仕方なく、ウヲルターの宿所らしい、メソポタミヤの、変な宛所へ向つて、手紙を出し、彼の愛国家としての働きをほめ、なほこの上の奮闘努力をたのむといふ意味をかいて、はげましました。すると中三月おいてウヲルターから第二の通信が来ました。その全文はかうです。

「トルコ兵は、例の乞食がイギリス軍の前線をくゞつたことを勘づ

いて、ひどくあやしみ出しました。彼等は乞食が本当につんぼであるかを試すためにその耳のそばで、つゞけさまに銃弾を発射しました。乞食はその銃声も聞えないやうに、ぼんやりと立つてゐました。しかし彼等はなほ不安がつて、彼を野砲の砲身のそばに立たせ、二十発もの実弾を打ちました。そのために彼の鼓膜はやぶれ、耳と鼻から、だら〳〵と血が流れ出ました。それでも彼は石のやうに、ぎくともしずに直立してゐました。

これで、つんぼであることだけはトルコ兵にも分りましたが、でも口は聞けるかも分らないと、なほ疑つて、赤熱（しやくねつ）した鉄棒でもつて、彼の肉をこすりました。それから両手の指の生爪をすつかりはぎとりました。彼はそのたびに、ポロ〳〵と頬へ涙をおとしましたが、しかし、あッといふ叫びも立て得ませんでした。

トルコ兵はこの罪もない片輪ものに、そんな暴虐をしたことを悔い、神の罰をさけるために、これまでよりもなほ一倍、彼をあはれみ可愛がりました。彼は血のかたまりの腐りついた指をぶら下げて、相かはらずトルコ兵の陣営の中を、さまよひ歩きました。

そのうちに彼は再びイギリスの軍司令部へぶらりと出て来ました。そのときには彼の左手は、指先の傷口から毒がはいつて、手くびの上まで腐りおちてゐました。イギリスの軍医は仕方なく、その左の片腕を切り落しました。

すると、ふしぎにも、それ以来、乞食は急に口がきけるやうになりました。彼は司令官に向つてトルコ軍の作戦計画を話しました。軍の配置やすべての砲台の位置をもくはしく、はつきりと述べました。

彼にも、この報告がイギリス軍にとつて、どんなに貴重なものであるかゞ、分つてゐました。このためにイギリス兵のいかに多くが、むだな死から救はれるか分りません。しかし、反対に彼の命は最早だん〳〵に亡びかけてゐます。彼は、いたるところで止むなく腐り水を飲んだのがたゝつて、腕の切断にひきつゞき、はげしい赤痢にかゝつてゐます。

軍医たちは一生けんめいに彼の治療と看護とにつとめてゐました。しかし彼はアゼン市の近くにある小さな村の名前を告げ、そこへかへれば、きつと病気もなほる、そこには彼の妻と、三人の、かはいゝ子供たちがまつてゐるのだと語りました。

彼の妻は白人ではありません。もし彼がその妻をイギリスへつれかへつたら、人々は、彼女に向つて嘲笑の鼻をそらすでせう。しかし彼女は百合の花のごとく純潔です。その心根は黄金のごとくに光つてゐます。読むこともかくことも出来ない無教育な女ですが、それでも彼女は、彼の三人の子供、女の子二人に小さな男の子と、その三人の子供とともに、彼に取つては、すべてのものです。彼はその妻と子供たちとに会ひたくて、一ときも、じつとしてゐることが出来なくなりました。彼は最早彼のつくすべき任務をはたしたのです。ですから彼は、思ひ切つて、或夜、メソポタミヤのそのイギリスの軍営をぬけ出しました。今彼は半分以上死骸ともいふべき、よろ〳〵のからだを、虫がはふごとくに彼の妻子のもとにはこんでゐます。おゝ、神の恵みのありがたさよ。彼の妻子は間もなく彼を迎へよろこぶでせう。これこそ、彼等の熱愛なこの迎へこそ、彼のためにすべてを償ふに十分です。牧師殿。あなたの御幸福をお祈りします。さやうなら。」

三

ホームス牧師は、又或日、植物見本として、ごは〳〵の草つ葉や、干からびた木の葉を一とくるめに巻きこんだ小包を受けとりました。トルコ領メソポタミヤの消印があるので、むろん、すぐに、ウヲルターからだとは感づきましたが、それにしても、こんな草つ葉なぞを何の意味でよこしたのだらうと、けゞんに思ひながら、注意ぶかく葉つぱを、ほどきのばして見ますと、しまひに草の間から、古けた紙にかいた手紙を小さくちぎつたのが、かたまつて出て来ました。「ふゝん、かうして検閲官の目をくらませたのだな。」と牧師は胸ををどらせながら、苦心をして、そのきれ〳〵を、すつかりつなぎ合せました。するとけつきよく三通の完全な手紙が出来上りました。

ウヲルターは例の片腕を切り落された貴い愛国の勇士を、やはり、じぶんだとは言はず、どこまでも、或知合ひの、遊牧民上りのアラビア人としてかき続けてゐるのでした。

「親愛なる牧師殿よ。かの片腕のアラビア人は赤痢のためにおとろへつくした、敗残のからだを引きずつて、とう〳〵アデンの町までたどり着きました。赤やけた夕日は丁度あたりの棕梠の林の上に沈みかゝつてゐました。

彼は最早、これ以上歩くことも出来ないため、虫のやうに、はひずりながら、そこから少し先の村にある、彼の家を目ざして、にじり動きました。彼は月光のみなぎつた砂地を横ぎつて、やつとのおもひでわが家のそばの林の下まで来ました。もう一と息でその林をくゞり出れば、彼のこひしい妻と三人の子供との手を取ることが出来るのだと思ふと、半死人のごとくに、へと〳〵になつた彼自身の中に、急にあたらしい命が注ぎ入れられたやうに元気づきました。彼は思はず立ち上つて走り出しました。しかし林をくゞりぬけると同時に、彼は、あッと叫んで倒れころがりました。彼の家は、すつかり焼け落ちて灰のかたまりだけになつてゐるではありませんか。彼はおどろきのあまり、そのまゝ気絶してしまひました。

牧師殿よ、しかし神のお恵みのありがたさ。彼はやがて、何だか真つ黒な眠りから目ざめるやうな気持で、かすかに目を見ひらきました。まだ、すべてが、わけの分らない夢のやうで、はつきりしませんでしたが、ともかく彼はだれかの膝の上にかき抱かれて両手をかたく握られてゐました。変だなと、ぼんやり気づいたとき、彼の顔の上へ、ぽた〳〵と熱い涙がしたゝり落ちました。

「おゝ、あなたよ。」と喜ぶ、女のアラビア言葉は、まがひもない、やさしい彼の妻の声でした。彼女は彼の耳に口をつけて、さゝやき、再び彼を、この村での、もとの唖にさせてしまひました。しばらくして彼女は彼を背中におぶつて歩き出しました。それから、途中でいくどとなく彼を下して休ませ休ませしながら、つひに、五六マイルはなれた、彼女の父親の家へはこびこみました。

彼の気分がやつとたしかになつたとき、妻は彼の家が焼かれたいきさつを話しました。数週間前の或午後、騎馬のトルコ兵の一隊が北の方から彼の村へやつて来て、危険だから、すぐに沙漠の中へ立ちのけとやさしく彼女たちに言ひわたし、着のみ着のまゝで追ひ立てたものださうです。彼女は沙漠の上に夜が下りかゝるのをまつて、子供たちをつれて家のやうすを見にかへると、家はいつの間にかす

つかり焼きはらはれてゐたのだといひます。

村の女たちの話では、トルコ兵は家々の中へはいりこんで、値のあるかぎりのものをすつかり掠奪し、小さな畠の作物や、コーヒーのとりいれをまで、こと〳〵くうばひとつた後、家をやきはらつて行つたのださうでした。

彼女は仕方なしに三人の子供を母親のところにあづけ、焼けのこつた或家に、一人で身を寄せて、あくる日からまいにち、昼も夜も、つゞけさまに彼女の家の焼けあとに坐つて彼がかへつて来るのを待つてゐたのでした。戦争前から、どこにゐるのか、たゞの一どもたよりをよこさない彼が、何といふわけもなく、きつと今にも、ひよつこりと帰つて来るやうな気がして、一日に一度、夕方に食事にかへる以外には、たえず、あの林の下で待ちくらしてゐたといふのです。

ふしぎにも彼は全くそのとほり、かうして彼女の下に、彼の最愛な三人の子供の下に、かへつて来たのです。

彼は今、百合の花のごとくに純情な彼の妻と、小猫のごとくに可愛らしい子供たちとにまもられて、無限の幸福の下に、少しづゝ健康をとりかへしてゐます。しかし、僅かな体力が再び彼にかへるにつれて彼は、又つぎの任務を——イギリスのために尽すべき最後の努力を考へ夢みてゐます。」

第一の手紙はこれで終つてゐます。ホームス牧師はいつしか目に涙をにじませながら、つぎの一通をとり上げました。

四

ウヲルターは再びよろ〳〵歩けるやうになると、すぐにアデンの町へ出かけました。そしてトルコ兵やドイツ人たちの隠謀について、何をか探り出す機会を得ようと狙ひながら、或市場の人ごみの中に立つてゐました。

彼は、又もとの、唖と聾の乞食に化けてゐるのでした。

ふと見ると、目のまへの町角に、並はづれて高い商家の建物があります。ウヲルターは、ふと、数年前までの彼の、狂人じみた病癖をおもひ出しました。前にもお話ししたやうに、彼はイギリスにゐた時分には、こんなたかい屋根を見ると、どうしてもがまんがしきれなくて、いきなり雨樋につたはつてかけ上り、窓のあいてゐる屋根裏の部屋へとびこんだものです。別に何も物を盗むためではありません。たゞわけもなく高いところへよぢ上り、一ばんたかい部屋へとびこんで見たいだけの慾気なのです。そのために彼は泥棒未遂罪としてつかまつて、九回も牢屋にたゝきこまれたものでした。

彼は今、目のまへの建物の、たかい雨樋を目で見計りました。そしてもう今は切り落されてない、左手のつけ根のあたりを、さびしく見入つてゐました。

すると、ふと、そのたかい屋根の上から、ミヤオ〳〵といふ、おびえたやうな小猫の声が聞えて来ました。おやと思つて、あとしざりをして屋根の上を見ますと、小さな一ぴきの小猫が、前後も考へないで冒険して、その高屋根の上までのぼつたものゝ、下りるには、足がゝりがないために、ミヤオミヤオと人のたすけをもとめてゐるらしいのです。

ウヲルターは思はず雨樋の下までかけつけました。それから、ち

よつと立ちどまつて、又、ない左手の肩先をふりかへりましたが、つぎの瞬間には、右手一本で雨樋につかまつたと見ると、まるでりすかなぞのやうに、ものゝ四十秒もたゝないうちに、もう屋根のはしのところまでかけ上り、小猫をつかまへて上着のふところに入れました。そしてする〳〵ッと下りて来て、小猫を地びたにおいてやりました。

あたりの人はびつくりして、目を見はつて見てゐました。

その群集の中に、ふと二人のドイツ人がゐました。二人は、たゞの小猫一ぴきをたすけるために、こんなあぶないまねをする乞食のばかさ加減を嘲るやうに、ウヲルターの顔をふりかへりながら向うへ歩いていきました。

ウヲルターはドイツ人を見ると、すかさず、そのあとを、つけていきました。二人は、ゆつくり歩きながら、しきりに何事をか話しつゞけてゐます。やがて、或さびしい脇道へはいりました。と、向うに一棟の倉庫が見えます。ウヲルターは、あとをつけてるのだと感づかれないやうに、わざと二人を追ひぬいて、倉庫の前へ来て地びたに坐りました。そして丁度お午なので、マホメット信者のすべてがするやうに、その場にひれ伏して神さまにお祈りを上げてゐました。ドイツ人二人は、そのそばを通りかゝりました。一人は、畜生、往来の邪魔をする、といはないばかりに、靴の先でウヲルターの肩先を蹴りのめして通りました。ウヲルターは、それでも顔も上げないで一生けんめいに祈りつゞけてゐました。

ドイツ人たちは、ふとウヲルターから二三歩はなれた片わきに立ちどまりました。彼等はドイツ語なぞを聞きわけるはずもないアラビア人の乞食とおもつてばかにしたのかウヲルターのゐる前をもかまはず間諜としてのいろんな秘密の相談を大びらに話しつゞけました。じいつと、頭を下げたなり聞いてゐますと、二人は、今晩、この倉から時計をとり出して、すべての英国船の石炭庫へ入れこむ計画をしてゐるのです。それには、やはりアラビア人の石炭人夫を使ふ外はないと、最後に一人が言ひました。ウヲルターは、その時計といふ言葉を聞いて、ぞくりとしました。時計と言つたつて無論ただの時計ではありません。爆発薬に、時計仕かけの発火器をつけたもので、船が出帆してから、幾時間目に海上で爆発させようといふ、その時間を、早くいへば、目ざましの針のやうなものに合せておくとおもひどほりに、ドドンと発火する、おそろしい爆破道具なのです。その晩、ウヲルターは、あたりが暗くなるとすぐに、こつそりとその倉庫の雨樋をつたはつて、高窓から二階へしのびこみました。それから、下へ下りて、荷物のかげにかくれてゐました。すると、はたして、昼間のドイツ人の間諜二人が、入口をあけてはいつて来ました。

「では君はこの時計をくばつてしまつたら、すぐにバグダッドの兵器庫へ廻つてくれよ。あの中に爆発薬が一ぱい入つてゐるからな。軍服はこの錫の鑵の中にあるよ。」「はい」「ほら時計はこれだ。」「こいつは夜ふけてから持ち出しませう。」二人は蝋燭の灯の下にこゞまつて、こんなことを言ひながら一つの荷造りをといて、時計の函をすつかり取り出し、それを又一つにしばつて、片わきへ、おいといて出て行きました。バグダッドの兵器庫といふのはチグリス河の上流のその町の近くにある、トルコ軍の兵器庫なのです。二人が出て行つたのを見すまして、ウヲルターは積荷の後からはひ出しました。そして、手さぐりに、時計の荷物を盗んで引つかゝへ再び

高窓からすべり下りました。ともかく、これで船は、たすかつたわけです。

「ようし。おれも、かうからだが弱りきつてゐてはもういつ死に倒れるかも分らない。そのまへに、もう一ど、イギリスのために働いておかなくちや。」

ウヨルターはかう思ひながら、まづ時計をかくす場所を探しにかゝりました。

五

ホームス牧師は、なほウヨルターの第二の手紙をよみつゞけました。けつきよく、ウヨルターは、ひどい病後の、よろ〳〵したからだをもかまはず、アデンの町へよろけ入つて、ドイツ人の倉庫から例の時計仕かけの爆発薬をすつかり盗み出すと一しよに家族たちを都合のいゝ或場所へつれて来ました。それから、家内の父親の持つてゐるモーターボウトを借り、チグリス河をさかのぼつてバスラといふ町へつきました。そして、こゝから、さらに三百マイルの間を、右手しかない、その片手でかぢをとつて、バグダッドまで乗りこんだのです。

ウヨルターはアデンで、運よく、爆薬と一しよにドイツの将校の軍服、軍帽をも盗み出しました。その軍服のポケットの中に、偶然一まいの見取地図がはいつてゐました。その地図に、ウヨルターの目ざすバグダッドの、トルコ軍の火薬庫の位置が、はつきりと、かき入れてありました。ですからウヨルターには、もう、仕事は、バグダッドへ入りこむだけで十分なわけでした。

いよ〳〵バスラを出発した後も、幸にモーターの調子も終始狂はず、七日目の朝のしら〳〵あけに無事に、バグダッドの町へつきました。

あたりの家々がまだ寝しづまつてゐるので好都合でした。ウヨルターは荷包みの一つから、軍服や、軍帽を取り出して、すつかりドイツの士官になりすましました。そして、傲然（がうぜん）と、河岸のアラビア人の家をたゝきおこし、トルコ軍の火薬庫へ重要貨物をはこぶについて、数人の人夫がいる、すぐにそろへ集めろと命令しました。例の爆発時計だけでは、あやしまれる気づかひがあるので、わざと、ほかに、弾薬と見せかけて、重みのある、大きな荷物をも持つて来たのでした。

ウヨルターは、それ等の荷物を、すつかり人夫たちの背中にせおはせて、兵器庫へ向つて出かけました。

ウヨルターは、途中の休息時間を、たくみに延びちゞめして、わざと、丁度夜になるころに、目的の火薬庫へつきました。警戒についてゐるトルコ兵たちは、むろん、ウヨルターをドイツの士官とおもひこんで、丁寧に迎へ入れ、ウヨルターの命ずるまゝに、すべての荷物を、大火薬庫の中へ入れこみました。

ウヨルターは、それを見とゞけると、すぐに、もとの河岸へ引きかへし、アラビア人の家で軍服をぬぎ、夜の十二時が来るまで、ひそんでゐました。火薬庫に入れこんだ、いくつもの爆発の時計は、その時間に、かけておいたのです。ウヨルターは十二時少しまへに、モーターボウトに乗りこんで、船首を河下へ向け、かぢをにぎつて、まちかまへてゐました。時計にたいしては、すでに、こつそりと、

十分の試験がしてあるのです。

もう五分、三分、二分、ほら一分と、いふとき、ウヲルターは急いで、スタートを切つて走り下りました。

と、間もなく、ドドンと大地そのものがさけわれるやうな大爆音と地ひゞきと一しよに、町の上空へ真つ赤な炎の噴出がひろがりました。

ウヲルターは、無難に家族のところへかへつて来ました。

「アラビア人の遊牧民は、これでつくすべき仕事をしとげました。しかし、そのために、彼は疲労の極、再び、もとの重病人にかへりました。彼は今はたゞ一念、彼の間もなく迎へらるべき世界をのみ考へつゝ横はつてゐます。牧師どのよ、かうしてゐる彼の、その単一なる感情こそ、たとへ方なく、おごそかな貴いものです。

彼は、生前、いろ〳〵の誤解をもうけました。神さまも、かつては彼のためには怖れでした。しかし彼は、今は、何等の、ためらひもなく神のみもとに歩み上らうとしてゐます。おゝ、この栄光よ。彼は最早、神のめぐみの永久なることを信じてうたがはないのです。」

第二の手紙は、これで終つてゐます。ホームス牧師は、息をもつかずに、第三の手紙に移りました。それは、一九一七年八月八日といふ日附になつてゐます。

たび〳〵言つたとほり、これまでウヲルターは、すべて自分といふものを秘めかくし、このはじめからのすべてを、彼自身にそつくりそのまゝの、或遊牧民上りのアラビア人の乞食の行動として、報告してゐるのでした。ところが今度の三ばん目のこの手紙では、急に当面の人物が「私」になつてゐるから争へません。

「牧師どのよ。私は、最早いよ〳〵よわりつくしてしまひました。しかし、みじんも、怖れや不安はありません。すべての人は、死そのものに直面するとだれでも、このやうな平穏を見出すのだらうと信じます。トルコ兵の塹壕内を聾の唖となつてさまよつてゐた間も、ドイツの士官となつて火薬庫の戸外に立つたときも、私は今と同じく平静でした。しづかに死に対面するといふことは、すべての人に共通の心状とおもはれます。たゞ、だれも、その間際が来るまでは、それを実証し得ないまでのことです。

たゞ一つ、私の妻と小さな三人の子どもとが、私と一しよに移り行くことが出来たなら、私はどんなに、より幸福でせう。しかしそれが叶はないことを私は少しも恨みとはしません。私は、今、たえだえの息の下にこの手紙をかくのです。昨夜はかきながら昏倒しました。おそらく私のこの最後の間際に、あなたとかうしてお話をすることは、実に無上の愉快です。おゝ、わが故国をして、神のみめぐみによつて、永遠にすべての海上を支配せしめよ。私はこれ等の手紙が安全にあなたのお手に入る方策をとります。植物の標本ならば、するどく検査もしないでせう。

あけて今日は八月九日です。妻の父は、私の三人の子供を、彼自身のうちへ、つれていきました。妻はこれから私を、馬の上にかゝへのせ、手綱をひいて、医師のところへはこばうとしてゐます。私は地びたに横はつて、これをかく。さやうなら、さやうなら、牧師どのよ。」と、大部分は、ふるへた字で、かすれ〳〵にかきつゞけてあります。

六

牧師にとつてはこの手紙が事実上、とう〳〵彼の最後のわかれの言葉になりました。つぎに牧師がメソポタミヤから受取つたのは、或英人の病院の医者がよこしたもので、はツと思つたとほり、つまり、ウヲルターの死去のしらせでした。

「二週間前に、丁度一人のアラビア人の婦人が、その夫だといふ英人の一患者を、当病院につれて来ました。病人は、はげしい赤痢にかゝつたあとで、極度に衰弱してゐました。どうしてか、最近左腕を切断された彼は、なほ、からだ中、いたるところに火傷をしてゐました。

アラビア婦人は、片ことの英語で、この夫が、一年ばかりの間、メソポタミヤに出征中の英国軍のために働いてゐたと語り、なほ、貴牧師からおくられた一通の書簡を見せました。しかし彼女は、その貴翰を、二人のための、この上なき貴重な記念としてゐる容子で、たゞ、ちよつと私どもに見せたきり、すぐに、しまひこんで、つひに二度とは見せませんでした。患者は、手あての甲斐もなく、八月二十六日に死亡しました。

あはれなるはアラビア婦人でした。彼女は、アラビア人としては容貌のよい、品位ある女で、夫には命をもかけて、尽してゐたらしく、今度も、七十マイル以上のところから、はる／〃＼つれて来たのです。夫の死を見た彼女の悲痛は、全く言葉につくすことが出来ません。彼女は、夫の埋葬された塚の上に、十八時間も伏して泣いてゐました。そこへ、たま〳〵彼女の父なる、回々教の一長老が出て来ました。この父が数時間かゝつて、やうやく彼女を引きおこしてつれていきました。去るにのぞみ、彼女は、われ〳〵の努力、それは、もとより、小さな当り前の任務であるにかゝはらず、それを、涙をもつて、ひどく感謝しつゞけました。」

この女そのものにも感激したホームス牧師は、すぐにこの医師にたのんで、その行くへをさぐつてもらひました。しかし、長老はその後、間もなく全財産を売りはらひ、ウヲルターの遺妻と三人の子供とをつれて、どこへか遠く漂泊し去つたというのみでそれ以上、何の手がゝりもありませんでした。

牧師へのウヲルターの手紙だけでは、むろん、彼が語つてゐる、全事実の真偽が、疑へば疑はれないこともないわけですが、この医師の手紙によつて、すべてが十分符合するところへ、たま〳〵、なほ一通、さきに、牧師がウヲルターを乗組員に托した、あの貨物汽船の船長から次のやうな報告が来ました。

「かのウヲルターが、コロンボで下船して遁走しましたことは、すでにお話ししましたが、その後、私は、最近、はからずも、アデンの、チグリス河の河岸で彼に出会ひました。彼はアラビヤ人の遊牧民に仮装してゐましたので、彼の方からよびかけられなかつたら、私は全然気づかないでしまふところでした。その異やうななりをした彼は、河岸につないだぼろけたモーターボウトの破損箇所へ、いかけをしてゐました。彼は、おゝ船長と、全で毎日会つてゐる人にいふやうに、のんきに私をよびかけました。私はあまりの意外に、びつくりしました。

何だつて、そんなざまをしてるのだ、と聞きますと、だつて遊牧民になつたんだから仕方がないと言ひます。どうしたのだ、その左の手はと私は、これにも、おどろいて聞きました。着物の左手が、

空っぽで、ふは〳〵してゐたからです。すると、彼はこれはトルコ人に聞いてくれないと分らない、少しばかりイギリスのために動きまはつたもので、と答へます。――何をしたんだ。――何だつていいよ――で、そのボウトで、どこかへいくのか。――商ばひで、バスラまで――何を売りにいくのだ。――機械じかけの玩具と、軍服と、それからまだいろ〳〵のものを売りつけにいくんだ。――ふうん、それが、バスラではけるかね。――さああんまり、よろこびもしまいけれど。――彼はかう言つて、にた〳〵笑ひながら、何か悪企でも抱いてゐるやうなずるい笑ひを見せて河岸へ上つていきました。これだけです。彼からは、コロンボでの下船以来、それとも最近に何か音信が来ましたか。」

船長はウヲルターを国家のためにあれだけのりつぱな手柄をした勇士とは思はず、たゞ、じぶんの船からにげ出した、相かはらずのなぐれものゝ一人の後日談として告げて来たのです。牧師は、いつも言つてゐます。

「こんなわけで、ウヲルターは、今もつて、つひにどこからも一片の表彰をされたこともなく、この先も永久に、一人のかくれた偉人としてをはるわけですが、彼のこの絶大な勇気と、このりんぜんたる愛国的奉仕とは、いつ〳〵までも神と人間との前に、無限の霊光をはなつものでなければなりません。」ホームス牧師は、かう言ひつゝ常に熱涙をながして彼のおどろくべき事蹟を語るのでした。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第一〇巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「鈴木三重吉童話全集　第八巻」文泉堂書店
　　1975（昭和50）年9月
初出：「赤い鳥」赤い鳥社
　　1927（昭和2）年11月～1928（昭和3）年1月
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：tatsuki
校正：林　幸雄
2007年2月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

勇士ウ※［＃小書き片仮名ヲ］ルター（実話）

鈴木三重吉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/